

# 「キャンパスを守る会」結成。 地方独法、指定管理者、PFIなど あらゆるリストラに対抗する拠点に！

11月17日、国分寺労政会館において、府中キャンパス各分会と医療関係の市民団体および個人は共同して「都立府中病院と関連施設を都立直営で充実させる会(略称、都立府中病院・キャンパスを守る会)」を結成しました。集会の参加者は76名、うちキャンパスおよび支部はOBを含め24名が参加しました。集会は下記のような集会アピールを採択しました。療育センター家族会、国分寺難病の会、ALS患者の佐々木公一夫妻など、主に患者・障害者と家族、医療関係の団体役員が熱気に満ちた発言をしました。また会の代表に平井浩一さん(府中市日鋼団地自治会理事長、前国会議員団事務局(笠井亮議員秘書)、副代表に柳林子さん、事務局長に森永進を選出しました。国分寺、国立など一部の副代表や幹事は依頼中です。会の結成によって、私たちは地方独立行政法人化による神経病院の解体に徹底して抵抗する砦を得ました。今後、広く市民のなかで都立病院リストラに語っていくこととなります。

市民のみなさん　私たちは本日、「都立府中病院と関連施設(府中キャンパス)を都立直営で充実させる会(キャンパスを守る会)」を結成しました。

府中市内にある東京都の7つの医療・福祉施設のうち、5つの直営施設が、さまざまな手法で、すべて民営化されようとしています。都立病院・施設は本来、民間病院、診療所と連携して、地域住民の健康・いのちを守る地域のセンターとして期待されています。お金のある人、貧しい人も、命の重みは同じです。医療と福祉に格差と不平等があってはなりません。東京都には、住民が安心して健康にらせる条件をつくる責任があります。

重症・重度の障害児(者)の医療施設である府中療育センター、多摩療育園への「指定管理者制度」導入は、公(おおよけ)の施設を「ビジネスの道具」にすることであり、福祉施設には基本的になじみません。また難病の専門病院である神経病院、看護師の養成校である府中看護専門学校は「地方独立行政法人」移行の方向がだされています。地方独立行政法人では、都の補助金・人員が計画的に減らされ、患者の負担が増えることが予想されます。また府中病院は「PFI」方式で全面改築工事がすすんでいます。東京都は清水建設との間で、工事とその後15年間の病院運営(一部)について1,500億円の委託契約を結びました。新病院は利益を目的とする民間企業が日常的な病院運営に深くかかわります。看板は都立ですが、実質は民間です。住民要求より、病院収支が優先されるおそれがあります。その府中病院も地方独立行政法人にする可能性が強まっています。

私たちは、会結成を機会に、病院・福祉施設問題について深く学ぶ機会をたくさんつくりたいと思います。みなさんとともに、各施設を充実させ、住民の期待にこたえる施設に改善していくために、知恵と力をあわせて活動します。そのためにも民営化を許してはなりません。以上、結成集会の総意によって決議します。

2007年11月17日

都立府中病院と関連施設(府中キャンパス)を都立直営で充実させる会 結成集会

We want Bread but Roses too.  
生きるための糧(かて)、そして人間らしく働くための「尊厳」「夢」

ska@mta.biglobe.ne.jp